

令和4年第1回四日市市立図書館協議会会議要録

1. 日 時 令和4年8月23日(火) 午前10時00分～午前11時30分
2. 場 所 四日市市立図書館 3階 会議室
3. 出席者 岡田博子委員、坂下博夫委員、竹内裕子委員、竹下すま子委員
柘植敏生委員、中井孝幸委員、樋口雅也委員、福永智子委員
松井真理子委員
(五十音順)
図書館：館長（堀田）、副館長兼管理係長（村林）
奉仕係長（川崎）
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 2人
6. 議事録概要
 1. はじめに
 2. 会長・副会長選出
 3. 議題
 - (1) 令和3年度図書館事業報告等について
 - (2) 令和4年度図書館事業計画等について
 - (3) その他
 4. 終わりに

1. はじめに

【館長挨拶（任命状交付）】

（事務局）当協議会は、図書館法第14条に基づき、図書館長の諮問意見機関とする法定協議会であり、四日市市立図書館協議会条例に基づき設置される。各委員の皆様への四日市市教育委員会からの任命状については、感染症対策のため机上にて配布を行った。

2. 会長・副会長選出

図書館協議会条例第4条において、会長・副会長は委員の互選となっているところ、事務局案として会長に松井委員、副会長に福永委員をそれぞれ推薦。異議なく承認され、就任した。

図書館協議会条例第5条により、松井会長が議長となり、議事を進める。

【出席者確認・会議成立確認】 定数9名、欠席者 なし

【傍聴者確認】 2名。

【非公開範囲の決定】 適宜、諮るものとされた。

3. 議題

(1) 令和3年度図書館事業報告について

(事務局説明)

委員：利用状況について、総貸出者数の数え方について、入館された人は減っているのに貸出者数について、コロナ禍前に戻りつつあるとの事であったが、どのようなカウントの方法を行っているのか。

図書館：ご家族の貸出券を預かって、ご家族分を借りられる方や、延長についても再度カウントを行っているためによるものと思われる。

委員：自動車文庫について、下野地区にも来てもらっており、読みたい本をお願いすると持って来ていただくなどして子どもたちも喜んでいる。また、学校にない本を多く持って来ていただいて、子ども達が大変喜んでおり助かっていると先生から聞いている。今後も引き続きお願いしたい。

図書館：自動車文庫の派遣について、希望のあったすべてのところに伺うことは難しいが、限られた日数で日程を調整のうえ伺わせていただいている。

委員：多くの企画展示を行っているが、テーマについてはあらかじめ決めているのか、急に決めて展示することもあるのか。

図書館：毎年、恒例になっている展示もあるが、博物館の展示に合わせたり、時事問題、市民の方が興味を持っているだろうと思われることなどのテーマを担当職員の司書が取り上げて展示を行っている。

委員：例えば、ロシアとウクライナの戦争状態など、多くのフェイクニュースがある中、一方的な視点ではなくどちら側からでも考えられるような、図書館は惑わされずいろんな考えの立場に立った展示をしていただきたい。大きな展示でなくても、ミニ展示などで、時事問題を積極的テーマにした展示を行うと、多くの方が関心を持ち、今まで手に取らなかった本を知ることにつながるのではないか。小さい事ではあるが、展示は重要ではないかと思う。

図書館：ご意見を担当職員に伝え、今後の展示のテーマを決める際の参考として行きたい。

(2) 令和4年度図書館事業計画について

(事務局説明)

委員：予算のところについて、図書の資料費が昨年度より増えているのはなぜか。

図書館：昨年、協議会にてご報告させていただいた生川建設株式会社からの寄附を資料費として増額となったことによるもので、昨年度、補正予算として300万円分増額となった。

委員：職員組織について、会計年度任用職員で司書との表記はあるが、一般職員で司書もいるのか。

図書館：一般職員で司書の資格がある者もいる。現在、奉仕係長、管理係に1名、点字・録音担当者1名の計3名については資格がある。

委員：スタッフの件で、博物館でも人手不足をして大変だと聞いている。これだけの職員の人数で仕事は回っているのか。

図書館：回っているのかと言われると、回している。本庁では主たる業務の担い手は正規職員であるが、図書館においては司書であり、職員と同じ勤務形態の会計年度任用職員フルタイムの司書が、本の発注、レファレンスなどは一番手として業務に携わっている。会計年度任用職員パートタイムの司書についても、フルタイム職員と遜色がないぐらいよくやってもらっている。より良いサービスを提供するとなると際限なく人手はほしいところではあるが、現在一人ひとりがしっかり頑張ってもらっている。新図書館の話が始まってくると職員が足りないのは明らかなので、それについては人員獲得に向けて頑張っていく。

委員：小学校からのお願いとして、事業計画の報告を聞きいろんな取り組みを学校に対していろいろな働きかけをしてもらっており、宿題お助けとか工夫をしてもらっており、なのはな文庫含め今後ともご協力をお願いしたい。今年度も実施された全国学力調査において、読書の時間が減りつつあるというデータが出てきており、時代とともにこういった状況であることも知っていただき今後の取り組みに活かしていただければと思っている。

図書館：図書館に来ていただけるお子さんたちは充分読書環境が確保できているが、すべての方がそういうわけではない。こちらから出向くことはもちろんであるが、図書館は教育委員会なので、指導課、学校教育課、教育支援課などと連携をとりながら、さらなる読書環境が構築できるように現在進めているところである。

委員：今年度だけではなく、これから考えていってほしいことではあるが、コロナ禍で、タブレットが小中学生の一人ひとりに配られている時代で、調べることが劇的に変わったように思われる。今までのように調べて、検索して資料にたどり着くだけでなく、そこから次に何が大事であるかを考えていて、自分の考えを整理すること、まとめることが、学びに繋がっていくことになると思う。この流れは、これからの図書館においてもそうなるっていくのではないか。特に今まで一人で考えていたことがグループで話し合っただけのものでもまとめていくといったことがこれから大事になっていくと思われる。新しい図書館になった時に考えるべきことではあると思うが、新しくなったらすぐというのはなかなか出来ないと思うので、今のうちから図書館での資料の調べ方や触れ方が変わってくると思う。図書館は、アナログもデジタルも両方扱われているので、当然そういったものをどのように整理していくか、そちらの方がこれからは大切になってくるのではないか。当然、学校の先生たちとも一緒に相談していくべきである。図書館が出来る事と出来ない事がある

と思うが、これからの学びの仕方が変わってくることを思うと、そういった場所を図書館でも用意していただいた方がいいのではないかと思ったりした。沢山の施設があるというわけでもなく、少しずつチャレンジしたほうがいいのではないか。これはあくまでも、提案であってこうすべきという事でもないので、また考えながら実践してトライ＆エラーでやっていかれたらいいかな、特に答えがある訳でもない、全国みんな同じこと地域それぞれで考えていけばいいかと思った。

図書館：調べ学習について、四日市市は1人一台タブレットというのがいち早く導入された。現在、タブレットを使うと、「こにゅうどうくん学びの部屋」というのがあり、そこから市の色々な施設とかのサイトにアクセスできるようになっており、そこでも調べ学習が出来るようになっている。図書館に、四日市市のことを調べに来る際には、手ぶらで、ノープランで来る方も多く、図書館に来てから司書とのやり取りで、ここに来てから何を調べようか考え始める人もいる。家でまず何をしようかと思うときは、あらかじめ市のホームページや、「こにゅうどうくん学びの部屋」をみて、自分に興味関心のあるものは何なのかをまず調べてもらうのはどうかという案内や、図書館で調べてすべてを完結するのではなく、例えば司書たちが話を聞き取ったうえで、四日市公害と環境未来館で調べた方がいいのではないかとか、ばんこの里会館に行った方が、より詳しい資料があったりするのではないかと案内したりすることはある。ただ、〇〇委員が言われたグループでの学習についてはまだ何も出来ていない。学校のタブレットの使い方もこれから変わっていくと思う。今、学校の授業で全員の意見がタブレットで一斉に表示されて、先生が全員の意見を把握することが出来たり、どこで躓いているのかを授業の中で把握しながら進めて行けるなど、普段手を挙げなかった子どもたちがどのような関わり方をしているかを先生たちが良くつかまれていると思う。これが、今後グループ学習とかに使われていくことになると、図書館としてのアプローチも変わってくるのかと思う。タブレットの扱いについては教育支援課でさせていただいているが、多くの教員の方が教育委員会に出向しているので、先生方の話を聞きながら、より良い環境が提供出来るように努めていきたいと思っている。

(3) その他について

(事務局説明)

図書館：8月5日の教育委員会の総合教育会議の際に使用した資料をもとに新図書館の整備について説明させていただく。

(事務局説明)

委員：合意事項ということで、変わらないとは思いますが駐車場について心配である。

施設内には駐車場を設置しないとの事であるが、平成 30 年に想定をした 350 台の数を半分に、それに周辺の駐車場を使用することについて市の意向は理解できるが、利用者は間違いなく車で来館する。事例で挙げられている一宮市について、駐車場が 180 台しかなく無料時間が 1 時間となっている。こちらで調べた時点で利用率は 4 割であった。現在もほぼ変わりはないと思うが、利用者のほとんどが徒歩圏内の方である。駐車場がないので、遠方から来館する人は少ない。すばらしい図書館は出来ているが利用者は少ない。良い施設を建てても使われなければ意味がないのではないかと思います。駐車場はアクセシビリティの意味においては非常に重要なことであると思う。公共施設にバスが来るのではなく、自宅から図書館まで来ることを考えるとやはり駐車場は必要ではないかと思う。四日市に住んでいる人の生活が車ではなくバスに代わっているのであればいいがそうではない。車が中心の社会であるのなら駐車場は用意すべきではないか。

また、今後くすの木パーキングなどを利用するのであれば、無料の時間をどれだけにするのかをこれから議論になるのではと思う。一宮市の無料時間が 1 時間は良くない。主婦の人達が全く来ない。最低でも 2 時間は用意する必要がある。岡崎のりぶらは 3 時間であり、これくらいあると安心して利用できるのではないか。無料時間が 1 時間となるとあまり良い状態にはならないのではないか。駐車場は 100 台でもいいので施設内に作るべきではないか。

現図書館の継続利用について、これからの協議内容であると思うが、児童対象の図書の機能を残すとのことだが、これもなかなか難しいと思われる。本来であれば、一緒になっているべきであり、新しい図書館で子どもたちは絵本を読みたいだろうし、空間を感じてもらいたい。現図書館を継続して何らかの機能を残すといったことになるのであれば、駅前に車でなかなか来れない人達を小さな子どもたちを中心にした絵本図書館として活用するのも一つかと思うが、本来であれば一緒にあるべき。閉架図書についても本来は同じ所にあるべきである。除籍作業をやりにくいのではないか。わざわざこちらに来ないと除籍作業が出来ないのではないか。蔵書のありかを探しての行き来が増えることになる。蔵書というのは本来 1 か所に集約して、中央館として集めるべきではないか。現図書館を使い続けるというのも、サービス拠点として残すのも大きな考え方だと思う。それに何を残していくかは随時考えていただきたい。分離されるのは、難しいと思われる。小さい子どもを連れてくるのは母親もしくは父親、または家族連れで来ることになり、子どもの本だけしかないとなると、家族の図書館利用が減るのではないか。そのようなことも含めて検討してもらいたい。

図書館：駅前の交通の便の良い場所に決まったことで、逆に駐車場の確保が難しくなった。しかしながら、現在駅前に多くのマンションが建設されており、現

在の図書館に車を所有しておらず赤ちゃんを抱いて歩いてみえる方も多い。そのような方たちには、駅前にあると便利なのではと思う。政策推進課が調査した一宮市は無料の駐車時間は1時間であるが、先日、7月に視察に行った小牧市においては3時間としており、当市の新図書館のコンセプトが滞在型の図書館としていることから、駐車場が建物に直結していない事も考慮すると滞在が1時間では難しいは思っている。駐車場を整備する権限はないが、駐車時間をどれくらい無料にするかについては、希望どおりにはいかないかもしれないが、図書館協議会の意見として挙げていきたいと思っている。

蔵書は、自動車文庫の図書を除くと、約40万冊となる。新図書館に設置予定の自動化書庫も含めると、現在の蔵書をすべて持っていくことは可能である。ただし、現在の蔵書の中には収集はしているが閲覧が出来ない公害関係や人権関係の資料があり、そのようなものについては現図書館においていくかもしれない。ただ、現段階ではすべて持っていくことは可能なのですべて持っていくとは思っている。子どもの本についても、子どもの本を無くすのではなく、新図書館においてはワンフロアを児童書のスペースにしたいとは考えている。現在ある児童書はすべて新館に持っていく予定であり、さらに開架の部分を増やしてもっとゆっくりしたスペースにしていきたいと考えている。ただ、新図書館は中央館となるので分類は通常通りゼロから始まるNDCで分類していくことになる予定。現図書館は、気楽に親子でゆったりとした時間が過ごせるようなスペースを確保できないかと拡充的な意味合いで考えている。蔵書についても、偏りが無いよう両施設とも充実出来るように予算は取っていききたいと思っている。閉架書庫についても、一か所とすることは、図書館職員全員の思いであり、今後70年をどうしていくか、あさけプラザや楠交流会館とどういった関係を持っていくかも含めて検討をしていきたい。

委員：以前、市長に博物館などの市内の施設を巡回するバスについての検討を提案したことがある。駅前に新図書館が移転し、バスターミナルも出来るのであれば、市内巡回のバスを運行してもらえると図書館にも来てもらえるようになるのではないかと思いますので、機会あるごとに引き続きお願いしていきたいと思う。

図書館：四日市市には施設を回るコミュニティバスのようなものがないので、ほとんど意見を言ってももらえると有難い。

委員：〇〇委員同様、駐車場について心配である。当初計画を立てた時には利便性が良くなることが利用につながるので、現在の駐車場の数に納得するのではなく利用者側に立った駐車場の計画をしてほしい。現在の図書館の利用については可能性が広がったと個人的には嬉しく思っているが、可能性の中に今後の高齢者社会を見据えてお年寄りの方の利用をいれてもらいたい。駐車場に止めて、付き添ってもらいながらゆっくりと滞在してもらえないか。

四日市市は分館が少ないので、お年寄りが使える図書館としての利用を 1 つの可能性として大変期待している。使いにくくなって、職員の負担が増えると思うので、覚悟をもって職員を充実して、現図書館を残していつてもらいたい。図書館協議会として、新図書館の計画が立った時に、蔵書の充実、駐車場、運営形態について、お願いしていた。その中の運営形態について、現在の計画には検討事項として挙がっているが、教育委員会が主体となって運営していく、市が直営でやって行くことは、協議会としての意向であることを伝えていつていただきたい。

委員： 前回の図書館の計画の際にも、図書館協議会としても意向を出していたが、やはり運営形態は直営でお願いしたい。これまで四日市市の図書館が築いてきた目に見えない財産、運営の方法、書類に表記するほどでもないような積み重ねられてきた専門的な知識が、直営でなくなった時点で無くなってしまふ、取り返しがつかない、元の状態にするには時間がかかって大変になると思われるので、是非直営の状態を残してもらえればと思う。
協議会としては、職員による直営でお願いしたいことは挙げていつてもいいのではないかと思う。

図書館： 現図書館の利活用に関し、議員説明会においては高齢者に向けての利用については説明の中に挙がっていなかった。今日いただいたご意見は市の担当である政策推進課に報告をしていきたい。
職員の充実については、駅前での運営となると開館時間について、現在の図書館のままでは難しいと思われる。閉館時間についても隣接の近鉄百貨店の閉館時間、学習塾の閉校時間、市外からの仕事帰りの方に利用して頂くことを考慮すると、閉館時間を何時にすることがふさわしいかを今後協議をしていくことになる。その中で、現在の職員体制で出来るかとなると、正規職員が少なく、また現在頑張って従事してもらっているパートタイム職員に午後 9 時まで勤務してもらうことも難しい。出来る限り直営ではいきたいが、難しいとなると、人員確保のために一部委託で運営していくことは検討していくことになると考えている。委員の方が懸念してみえるのは指定管理ではないかと思われるが、指定管理にはならないよう何とか頑張っていきたいと思う。新図書館についてはフロアーが複数階に分かれ、蔵書についても各フロアー増やしていくことにもなる。図書館コンシェルジュのような案内人の配置が必要になってくると思っている。ICT化を進め、機械化できるものは出来るだけ進めても、人員増は必要になってくるので、どこかにお願いをすることも必要になってくるのではないかと思っている。
現在働いている蓄積された知識をもっている司書たちをすべて、新図書館においても働き続けられるようにしていくつもりではあるが、規模も開館時間も長くなるので、どこかで今までとは違う力を使っていくことになると思う。それについては、協議会で相談をしながら進めていきたいと思っている。

委員：くすの木パーキングをメインの駐車場にしていくと聞いているが、くすの木は高額であると聞いている。1 時間程度の無料では人が来ないのではないか。地下をつなげて、地下に駐車場を整備することについては、あきらめないで要求をして行ってほしい。

委員：新しい図書館がこれから建設され、70 年のスパンを考える中で職員体制が重要であると思う。司書を正規採用していない市などの自治体はあるが、これから郷土についての資料などを多く収集していく中で、計画的に進めていくとか、知識と資料とともにつなげていくということ、それと 100 年計画というか先々のことを計画しながら考えていくことが必要と思う。その為には、継続して司書の正規職員を採用していくことが、これからの若い人たちを育てていく意味で四日市市が言っているように重要なコンセプトであると思う。図書館が率先して採用して育成していく姿勢を見せていただけるとありがたいと思っている。その必要性を、文化を進めていくことが三重県は遅れている。今後のことを考えて、四日市市には、司書の採用について頑張っていたきたい。それについては、支援をしていきたいし協力もしていきたいと思っている。高校生のなかでも司書を目指している生徒は多くいるので、道を開いてほしい。

図書館：現状、四日市市は正規職員を司書枠取りで採用をしたことがほぼないと思われる。現状司書資格を持っている職員は、もともと持っているか、以前は図書館に配属された職員が資格を取りに行かせている時期に資格取得した職員である。現在司書として採用しているのは、会計年度任用職員フルタイムであり、有期となっている。

今年、県と亀山市が 1 枠正規職員の募集をしたが、私どもも必要性を訴えていきたいとは思っているがなかなか厳しい。出来るだけ頑張っていければとは思っている。

新図書館について、これから話がどんどん進んでいくことになると思われる。3 月に、前回のメンバーにて協議会で意見をまとめて提出してはどうかとの話が出ていたが、まとめたものを持っていくとなると、スピード感が追い付いていけないことが懸念される。そのため、今後は委員の皆様にご諮っていきべき件については、どんどんこちらから挙げさせていただく。

今年度については、協議会のピッチも上げていくつもりであり、回数を増やしていく予定である。今回の駐車場の件も含め、他のことも決めることがあれば、進めさせていただきたいと思う。要望書などをまとめるのではなく随時、私が政策推進課の会議に出席するので、その都度ご意見を持っていく形をとっていききたいと思っている。

4. 終わりに

(事務局) 第 2 回協議会については、10 月 25 日 (火) 15 時より開催としたい。